

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った検査の後に保管されている残った試料（血液など）を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテや保管されている試料（血液など）を利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

超高感度酵素免疫測定法を用いた膵島関連自己抗体、C-ペプチド等の測定による臨床検査法の確立とその臨床応用および測定系の自動化

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院

【研究責任者】 高田康徳（愛媛大学医学系研究科糖尿病内科学講座 准教授）

【研究代表者】 濱田淳平（愛媛大学医学部附属病院周産母子センター 講師）

【研究の目的】

過去に受診された糖尿病患者さんの診療録（カルテ）の情報を収集するとともに、保管されて残っている試料（血清）を使用して、超高感度酵素免疫測定法により膵島関連自己抗体などを測定し、小児においてもこの方法で病型診断が可能かを研究することを目的としています。これを明らかにすることにより、今後発症する糖尿病小児患者の早期病型診断につながると考えています。

【研究の方法】

1980年1月から2019年3月に愛媛大学医学部附属病院を受診された方のうち糖尿病と診断された患者さん。

（利用するカルテ情報）性別、年齢、発症時期、合併症、既往歴、身体所見、血液検査データ、画像検査データ、治療状況 など

（利用する試料）通常の診療で使用した後に残った試料（血液など）

【共同研究について】

この研究は、他の病院や研究施設と共同で行っていますが、今回使用するデータ/試料は当院を受診された患者さんのみで、匿名化され用いられます。多くの情報を解析することで、医学・医療の発展に役立つ成果が得られることが期待されます。

【個人情報の取り扱い】

収集した試料・情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を除いて匿名化いたします。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

<試料・情報の管理責任者>

濱田淳平（愛媛大学医学部附属病院周産母子センター 講師）

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、**【お問い合わせ先】**までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院周産母子センター 講師 濱田淳平

791-0295 愛媛県東温市志津川

Tel: 089-960-5320